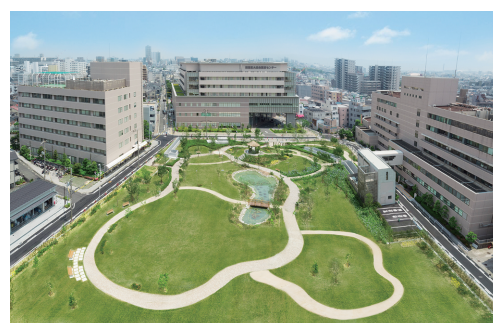


Annual Report

KANSAI MEDICAL UNIVERSITY MEDICAL CENTER
Department of Vascular Surgery



KANSAI MEDICAL UNIVERSITY MEDICAL CENTER

令和4年度 成績報告

関西医科大学総合医療センター 血管外科

1. 手術統計

手術件数（手技件数）	386(431)例	下肢静脈瘤手術	38例
動脈手術	75例	①ストリッピング術	1例
①閉塞性動脈硬化症	23例	②血管内焼灼術	30例
大動脈-両側大腿動脈バイパス術	1例	③その他(高位結紮など)	7例
腸骨(大腿)-大腿動脈交叉バイパス術	1例		
大腿-膝上膝窩動脈バイパス術	1例	バスキュラーアクセス手術	159例
大腿-膝下膝窩動脈バイパス術	8例	①内シャント造設術	74例
大腿-足部動脈バイパス術	3例	②人工血管シャント造設術	3例
膝窩-足部動脈バイパス術	2例	③静脈-静脈バイパス	1例
大腿動脈血栓内膜摘除術	4例	④動脈表在化	5例
追加バイパス術(EIA-graft)	1例	⑤永久留置カテーテル挿入	9例
血管再生治療	2例	⑥シャント感染	2例
		⑦シャント閉鎖	2例
②急性動脈閉塞	18例	⑧シャント血栓除去	2例
下肢血栓除去術	5例	⑨シャント血栓除去+PTA	4例
下肢血栓除去術+PTA	11例	⑩シャントPTA	54例
上肢血栓除去術	1例	⑪その他	3例
上腕動脈バイパス	1例		
③動脈瘤	34例	血管内治療	87例
胸部大動脈瘤ステントグラフト内挿術(緊急)	2例	①経皮的血管拡張術/ステント留置術	84例
腹部大動脈瘤ステントグラフト内挿術	21例	②IVCフィルター留置および抜去	2例
うち同時コイル塞栓	2例	③EVAR前コイル塞栓術	1例
腹部大動脈SG内挿術後中枢ネックbanding	1例		
大腿動脈瘤	5例	その他	27例
医原性大腿仮性動脈瘤トロンビン注入	1例	(下肢切断、ECMO抜去、創感染手術、動脈尿管ろうなど)	
膝窩動脈瘤	3例		
橈骨動脈瘤(感染による仮性瘤)	1例	血管造影検査	45例

2. 手術成績

動脈バイパス術	手術死亡 0、入院死亡 2例	血管内治療	手技死亡 0例、合併症 2例 初期成功率 98%
①84歳男性：CLTIに下腿バイパスを施行も感染からグラフト破綻し、止血したが壊死進行し下肢切断。以後誤嚥性肺炎で術56日後に死亡		①透析患者の高度石灰化した大腿動脈を穿刺したところ止血困難となり、直視下に縫合止血	
②70歳男性：他院での複数回のEVT再狭窄症例で、右足の急速な壊死進行があり下腿バイパス施行。しかし術後潰瘍からの感染がおさまらず下肢切断。術51日後胆嚢炎併発し死亡		②術後に仮性瘤形成あり、トロンビン局所注入にて血栓化	
バイパスグラフト 早期閉塞	1例	大動脈瘤	手術死亡 0、入院死亡 1例
膝窩動脈瘤患者で膝部のkinkあり血栓除去と筋膜切開で二次開存を得た		66歳男性：高度肥満のAAA開腹症例、術後肺炎となりMOFを併発し術42日後に死亡	
		静脈瘤・バスキュラーアクセス手術	死亡、合併症 0例

3. トピックス

●神西先生が入局

令和4年4月、産業医科大学から神西 優樹先生が、我々の仲間に入ってくれました。山口出身で産業医科大学平成22年卒業です。産業医大は地域の産業医としてのdutyがあったので、血管の修練はこれからですが、学会発表などはすでに要領よくこなしてくれています。山口で善甫先生のステントグラフト手術を見て血管外科医を目指そうと思ったのがきっかけで、専門施設に移籍してくれました。みなさん、今後ともどうぞよろしくお願いします。



●駒井が国際委員長に

駒井は、日本血管外科学会において、チーム医療推進委員長、編集委員長を歴任したのち、5月から国際委員長を拝命しました。今日本血管外科学会はアメリカ、ヨーロッパ、アジアの血管外科医から注目されてきており、今後の国際活動によって、世界に影響力を及ぼす組織になるかどうかが決まります。そういう意味で大変責任の重いポストであると感じています。早速WFVSを通じてアルゼンチン血管外科学会でWeb講演を行ったり、台湾でのアジア血管外科学会で特別講演を行ったり、ヨーロッパ血管外科学会にも参加してきました。また、企業の依頼でイスラエルの先生方に血管新生療法の講演も行いました。このような活動を通じて日本の血管外科の実力が世界に知れ渡り、より一層の交流ができるようになれば、と考えています。

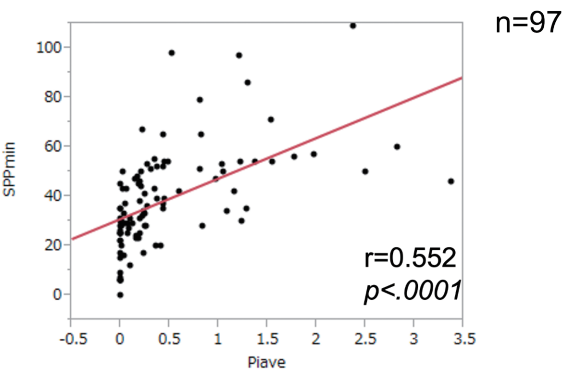


●Late breaking sessionとinternational session

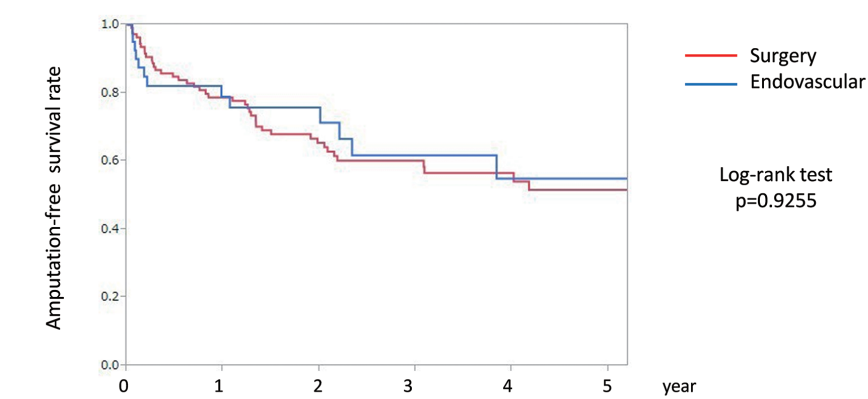
5月の日本血管外科学会では当科北岡Drが、「Late breaking session」という、最新の研究を発表するセッションにて、Perfusion Indexの臨床応用の第二報を発表しました。当科の進めている大きな研究の柱の一つであり、他大学の先生からも注目されています。

また深山Drが「ESVS-JSVS joint session」で、当科のCLTIに対する血行再建の遠隔成績をヨーロッパの先生に向けて報告しました。どちらの治療法も遠隔予後はほぼ同等であり、われわれの治療戦略の選択が間違っていなかったことを証明しました。

PI(平均値)とSPP(最低値)との相関



Amputation-free survival: Surgery vs. Endovascular



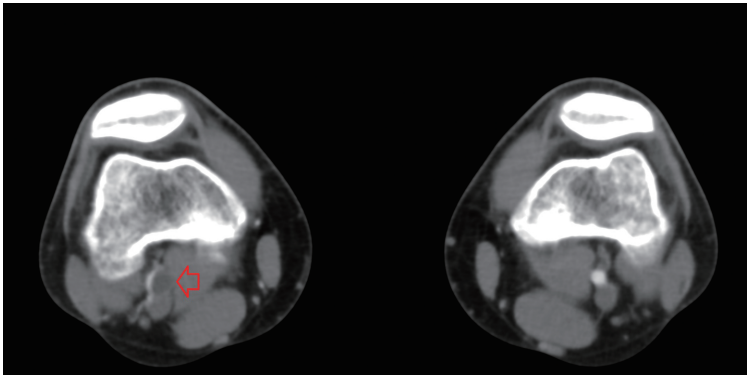
●山本先生復帰、学位取得

永らく産休を取っていた山本Drが8月から臨床に復帰しました。とはいえまだまだ子育てが大変ですが、関西医大の女性職員に対する支援制度を使用して頑張ってくれています。医局の他の医師も積極的に支援してくれており、Diversity & Inclusionのご時世、女性も男性と同等のキャリアがめめるような職場を目指しています。また10月にはPIの研究が認められ、私が教授となって初めての学位取得者となってくれました。今後も女性医師のロールモデルとなって血管外科医を増やしていってほしいと思います。



●めずらしい膝窩動脈外膜囊腫の手術例

毎年全国で30例ほどの症例数の膝窩動脈外膜囊腫の症例を経験しました。症例は33歳男性で突然の間欠性跛行により発症しました。動脈硬化にしては若く、危険因子もないので造影CTをとると膝窩動脈が外側に発生した囊腫で圧排されて狭窄をきたしており、膝窩動脈外膜囊腫と診断しました。背側アプローチにて囊腫部分の動脈を静脈グラフトで置換して無事跛行症状も消えました。膝窩動脈の疾患はASO以外にもあり、うかつに血管内治療をするとより悪化する疾患もあります。専門医に委ねていただくべき疾患であると思います。



4. 研 究

①論 文

◆著 書

1. 駒井宏好 9.閉塞性動脈硬化症 循環器診療コンプリート 血管疾患 保科 克行、今井 靖、編 164-183.秀潤社 東京 2023

◆原 著

1. Miyata T, Kumamaru H, Mii S, Kinukawa N, Miyata H, Shigematsu K, Azuma N, Ishida A, Izumi Y, Inoue Y, Uchida H, Ohki T, Kuma S, Kurosawa K, Kodama A, Komai H, Komori K, Shibuya T, Shindo S, Sugimoto I, Deguchi J, Hoshina K, Hideaki M, Midorikawa H, Yamaoka T, Yamashita H, Yunoki Y. Prediction Models for Two Year Overall Survival and Amputation Free Survival After Revascularisation for Chronic Limb Threatening Ischaemia. Eur J Vasc Endovasc Surg. 2022 64 : 367-376.
2. 坂下英樹、深山紀幸、山本暢子、大野雅人、北岡由佳、駒井宏好 大腿動脈血栓内膜摘除のパッチ形成におけるXenoSureウシ心膜パッチの使用経験 脈管学 2022 62 : 73-77.
3. 駒井宏好 糖尿病にともなう血管疾患 日血外会誌 2023 32 : 105-109.
4. 重松邦広、内田敬二、鬼塚誠二、尾原秀明、駒井宏好、高山利夫、西部俊哉、前田剛志、松田 均、東 信良 内臓動脈瘤診療に関する米国血管外科学会ポケットガイド日本語版 日血外会誌 2023 32 : 41-50.
5. Yamamoto N, Komai H, Sakashita H, Miyama N, Kawasaki D, Fukunaga N. Novel combination therapy of pedal arch angioplasty and dual distal bypass as an alternative treatment option for vasculitis in patients with chronic limb-threatening ischemia J Vasc Surg Cases Innov Tech. 2023 Jun; 9(2): 101138. Published online 2023 Mar 4. doi: 10.1016/j.jvscit.2023.101138

②学会発表その他

【国際学会】

1. Komai H Graft preparation, anastomoses targets selection, and exposure of target vessels TSVS 2022 Aorta and Peripheral Artery Cadaver Workshop Hualien (Web) 2022
2. Komai H The challenge to the early detection of CLTI patients The 23rd Asian Society for Vascular Surgery Taipei (Hybrid) 2022

【総 会】

◆特別発表

1. 駒井宏好 糖尿病に伴う血管疾患 第50回日本血管外科学会 第34回日本血管外科学会教育セミナー 北九州 2022
2. 深山紀幸、坂下英樹、河野暢子、北岡由佳、駒井宏好 Current approach to chronic limb-threatening ischemia JSVS・ESVS Joint Session Current situation of CLTI 第50回日本血管外科学会 北九州 2022
3. 山本暢子、深山紀幸、神西優樹、北岡由佳、駒井宏好 脈管診療におけるダイバーシティ 外科医のsustainability パネルディスカッション 1 脈管診療におけるダイバーシティ 第63回日本脈管学会 横浜 2022
4. 深山紀幸、北岡由佳、神西優樹、山本暢子、駒井宏好 シンポジウム4 重症心疾患と末梢動脈疾患の重複症例に対する治療戦略 心機能低下を合併した Chronic limb-threatening ischemia に対する治療成績 第53回日本心臓血管外科学会 旭川 2023

◆一般発表

1. 深山紀幸、北岡由佳、大野雅人、山本暢子、坂下英樹、駒井宏好 重症虚血を合併した末梢動脈疾患患者の予後に悪性腫瘍が与える影響 会長要望演題 4 【末梢・静脈】 第50回日本血管外科学会 北九州 2022

2. 北岡由佳、駒井宏好、山本暢子、坂下英樹、深山紀幸、大野雅人 新しい血流評価法 Perfusion Index を用いたベッドサイドでの重症虚血評価の妥当性の検証 Late Breaking Session 2 第50回日本血管外科学会 北九州 2022
3. 坂下英樹、深山紀幸、河野暢子、北岡由佳、駒井宏好 ウシ心膜パッチ：XenoSure を使用した大腿動脈血栓内膜摘除術の有用性 会長要望演題 8 【末梢・静脈】 血管内膜摘除術の有効な使い方 第50回日本血管外科学会 北九州 2022
4. 大野雅人、善甫宣哉、植月友彦、桑内慎太郎、岡田隆之、細野光治、金本真也、湊 直樹、川副浩平 慢性B型大動脈解離に対する胸部ステントグラフト内挿術の成績向上：とくにリエントリー閉鎖によるリモデリング効果 第50回日本血管外科学会 北九州 2022
5. 坂下英樹、大野雅人、善甫宣哉 カテーテル挿入時の医源性血管損傷 第84回日本臨床外科学会 福岡 2022
6. 大野雅人、善甫宣哉、坂下英樹、植月友彦、桑内慎太郎、岡田隆之、湊 直樹、川副浩平 胸部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術の成績向上 とくに左鎖骨下動脈再建による脳梗塞、脊髄梗塞の予防効果 第63回日本脈管学会 横浜 2022
7. 坂下英樹、大野雅人、善甫宣哉、植月友彦、桑内慎太郎、岡田隆之、湊 直樹、川副浩平 Conformable Excluderはポリエステル腹部ステントグラフトを凌駕する：Challenging neck症例に対するConformable Excluderを用いたEVAR 第53回日本心臓血管外科学会 旭川 2023
8. 大野雅人、善甫宣哉、坂下英樹、植月友彦、桑内慎太郎、岡田隆之、湊 直樹、川副浩平 弓部大動脈瘤に対するzone 1 TEVARにおける左総頸動脈chimney techniqueの有用性 第53回日本心臓血管外科学会 旭川 2023

◆座 長

●駒井宏好

1. 座長 特別企画 3 血管外科の醍醐味【腹部・末梢】 第50回日本血管外科学会 北九州 2022
2. 座長 JSVS・ESVS Joint Session Current situation of CLTI 第50回日本血管外科学会 北九州 2022
3. 座長 ESVS 会長講演 第50回日本血管外科学会 北九州 2022
4. 座長 シンポジウム 12 【末梢動脈】SFA 治療の最前線(DCB、ステント、ステントグラフト、バイパス手術など) 第50回日本血管外科学会 北九州 2022
5. 座長 海外招請講演 2 第53回日本心臓血管外科学会 旭川 2023
6. 指定討論者 優秀演題 第53回日本心臓血管外科学会 旭川 2023
7. 座長 特別企画 5 診療ガイドラインを振り返る～ガイドライン作成の経緯、その後の当該領域診療の変化と今後の展望～ 第53回日本心臓血管外科学会 旭川 2023
8. 座長 パネルディスカッション12 below the ankle 病変を有するCLTIの治療戦略 第53回日本心臓血管外科学会 旭川 2023

●深山紀幸

1. 座長 一般口演 5 末梢・静脈 2 第50回日本血管外科学会 北九州 2022
2. 座長 会長要望演題 7 透析患者の脈管診療 第63回日本脈管学会 横浜 2022

●坂下英樹

1. 座長 一般口演 7 腹部 1
第50回日本血管外科学会 北九州 2022

【地方会、研究会】

1. 北岡由佳、深山紀幸、神西優樹、山本暢子、駒井宏好
超高齢者への両側膝窩動脈瘤、左大腿深動脈瘤合併例に対する手術を経験して
第36回日本血管外科学会近畿地方会 吹田 2022
2. 北岡由佳、山本暢子、深山紀幸、神西優樹、駒井宏好
鼠経靱帯で圧迫され肢位により血流低下をきたした外腸骨－腓骨動脈バイパス術の一例
Peripheral Artery Surgical Meeting 2023 旭川 2023

③講 演

●駒井宏好

1. 静脈血栓症治療における体系的診療システムと地域連携
STOP PE Project Special lecture 久留米（Web）2022.6.28
2. CLTI治療の現状：徹底的な救肢救命をめざして
京阪CLTI治療地域連携講演会 大阪（Web）2022.7.21
3. 一般診療における下肢浮腫・腫脹の鑑別法とVTEの予防
VTEマネジメントセミナー 神戸（Web）2022.7.30
4. CLTIに対する最新の治療戦略-コラテジェンの適応と役割-
Collatogene Expert Seminar 2022 講演② 東京（Web）2022.9.10
5. 下肢虚血に対する新しい治療法
第6回関西医科大学総合医療センター地域連携研修会 守口
2022.10.7
6. 虚血による下肢痛の対処法；最新の血行再建法と疼痛コントロール
Pain Live Symposium in Kitakawachi 特別講演 1 枚方（Web）
2022.11.5
7. Current Status of our CLTI Treatments and Expectations for Collatogene
Anges Israel Web Meeting Moriguchi（Web）2022.11.29
8. 閉塞性動脈硬化症における糖尿病、脂質異常症の関与
第2回脂質代謝異常・糖尿病と血管合併症を考える会 特別講演 1
大阪 2022.12.1
9. 閉塞性動脈硬化症における糖尿病、脂質異常症の関与
興和（株）社内研修会 大阪 2023.2.16
10. 足の痛みは神経から？血流から？
その鑑別と治療 Pain Live Symposium～下肢疼痛診療を考える～
講演 守口（Web）2023.3.7

<当科医局員出張、外勤先（定期、不定期を含む）>

1. 関西医大香里病院（寝屋川）
2. 関西医大附属病院（枚方）
3. 関西医大くずは病院（枚方）
4. 暇生会脳神経外科病院（四条畷）
5. 交野病院（交野）
6. 吉田病院（枚方）
7. 小野山診療所（守口）
8. 羽原病院（泉佐野）
9. 森小路清水会クリニック（旭区）
10. 寝屋川生野病院（寝屋川）
11. いぶきクリニック（門真）
12. 大野記念病院（西区）
13. 有恵会 香里ヶ丘有恵会病院（枚方）
14. たにぐちクリニック（旭区）
15. 土田透析アクセスクリニック（藤井寺）

コロナ禍もようやくあけて、通常の診療に戻りつつあります。ここ3年間は本来手術をしなければならない患者が受診控えからか少なく、もしかすると手遅れになり大切断や死亡しているのではないかと心配しておりました。この原稿を書いている現在はようやく本来のように紹介が増えており、毎週のように重症虚血のバイパス術を行っています。ただ、病院全体としてはまだまだコロナ前の数字に至っていません。病院収入の面のみならず、必要な患者が大学病院にたどり着いていないのでは、と危惧しております。

昨年度はそのようなことで大きな手術が減ってしまいましたが、その分シャント関連の手術がかなり多くなってきました。残念ながら本院の本分である大手術が増えると、これらの手術を制限せざるを得ません。地域の先生方にご迷惑をおかけするかもしれませんが、なんとか関連病院などでこなしていくよう医局員一同頑張ってます。下肢血行再建では幸い血管内治療の成績もバイパス同様悪くなく、これはバイパス術との適応を常に吟味し使い分けて行っているからだと自負しています。数回の血管内治療が不成功になった場合にはどうぞ我々のバイパス術をご考慮ください。かなり弱々しい患者様ばかりですが手術死亡0で乗り切れています。

研究面ではまだまだですが、ようやく学位取得者ができました。大学病院としては研究も行っていかなければならないと考えています。臨床をするうえでもresearch mindは大切です。若手は臨床との掛け持ちが大変ですが、将来必ず役立つと考え、叱咤激励しています。

私駒井は国際委員長になり、本年も6－7回の海外出張の予定が入っています。臨床は若手に任せてもそんな色ない成績を上げていますので、私自身は少し日本の学会のために頑張っていこうと考えています。幸い日本血管外科学会は世界から注目されつつあり、若手の世界への進出のための手助けをできれば幸いと考えています。

これからもどうぞ関西医科大学総合医療センター血管外科をよろしく願いいたします。

令和5年夏

関西医科大学総合医療センター 血管外科

教授 駒井 宏好